

2018 年度事業報告書

1. 事業総括

1. 1. 団体の活動基盤について

2018 年度は団体の活動基盤を強化すべく、2017 年度に引き続き、作業標準化を行なった。具体的には、企画の計画～運営などの方法の明文化。今後も継続して進めていく予定。
中長期計画は以下の通り。

組織の成長プロセス	初期段階	構造化	標準化	統合化	最適化
状況	場当たり 属人的	徐々に明文化 計画的	プロセスの 明文化	戦略の 共有	継続した 改善
運営形態	一部のスタッフの みが運営	チーム制	チーム/ プロジェクト制	検討中	検討中
年度	2011-2013	2014-2016	2017-2019	2020-2022	2023-2025

1. 2. コミュニケーションバリアフリー推進事業

今年度も継続して、(1)労働 (2)生活 (3)文化の諸分野における情報バリアフリー推進事業を実施した。具体的には以下の通り。

(1) 労働

- 2018/11/16(金)に開催された、千葉県中小企業家同友会主催「第 44 回千葉県経営研究集会」の障害者雇用をテーマとする第三分科会にて、NPO インフォメーションギャップバスター 理事長 伊藤芳浩が登壇し、NPO の立場で、「障害者の方が働くために必要な社内環境づくりについて」主にコミュニケーションバリアの観点で講演。参加者からは、コミュニケーションバリアについて、新たな気づきがあり、今後の障害者雇用に活かしていきたいとのコメントあり。

(2) 生活

- 医療現場での情報バリアの解消を患者、医療従事者（聴覚障がいなどのハンディを持つ当事者自身が医療に従事している者）の双方に必要であると感じ、現状の課題を認識しつつ、今後の活動の展望を見出すべく、2018/09/17(月・祝)に、イベント「手話通訳者に医療知識は必要か？」というテーマでシンポジウムを開催した。（共催：NPO 法人川崎市ろう者協会）本イベントは過去最大規模の 320 名を超える参加があり、大好評の内に幕を閉じた。

(3) 文化

- 今年度開催なし。

2. 事業の成果

下記に示す通り、情報格差の解消(*)、情報リテラシー向上のための企画を当初の事業計画通りに開催する事ができ、情報バリア問題の啓発と自立支援に貢献出来た。また、各企画のアンケートの結果も概ね好評であり、開催意義はあった。

【情報格差の問題意識を高めるための情報発信及び啓発事業】

- ・ シンポジウム 4 回、講演 10 回、定例会 4 回の計 18 回実施し、延べ約 900 人以上に参加いただいた。
- ・ 産学連携に関しては、東京女子大とのコラボ企画は先方の都合により中止となったが、武蔵野美術大学での講演を実施できた。

【情報弱者をなくすための情報提供システムの開発事業】

- ・ Web サイトを運営し、5,000 人以上に発信した。(訪問回数より推定)
- ・ facebook ページの「いいね！」も 2,000 名を突破し、認知度が上がってきている。
- ・ メルマガを 12 回発行し、1,500 人以上に購読していただいた。(開封数より推定)

【情報リテラシー向上のための教育事業】

- ・ 今年度は活動なし。

【その他】

- ・ 2017 年度定期総会を 6/30 に、理事会は、8/22, 1/16 に開催した。
- ・ 会費ペイによる自動会費徴収システムによる会費徴収を開始した。
- ・ 要望（陳情）を 6 回行った。内容は下記の通り。
 - 電話リレーサービス・NET119・光警報など 緊急事態のコミュニケーションバリアフリー化の要望（総務省）
 - 電話リレーサービス制度化・法整備を求める要望（立憲民主党）
 - 電話を使用した問い合わせ・手続きにおける合理的配慮についての要望（総務省 他）
 - 川崎市立川崎病院に手話通訳を専門とする職員を配置する件の要望（2 回）（川崎市）
 - 声かけ・サポート運動に対する要望（交通事業者）
- ・ 5 年越しのロビーイング活動が実を結び、障害者雇用納付金制度が平成 30 年 4 月 1 日より改正施行された。本改正では、【手話通訳・要約筆記等担当者の委嘱助成】の制約が軽減された。
 - 4・6 級の聴覚障害者に対象拡大
 - 要約筆記 等（盲ろう介助員を含む）が手段として追加

(*) 2017 年度から「情報格差の解消」の一部である「コミュニケーションバリアフリー化」に重点を置いて活動をしている関係で呼び方が混在しているため、適宜読み替えてください。

3.事業の実績に関する事項

3.1. 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施回数	実施日	実施場所	テーマ	受益対象者の範囲及び人数	
(1) 情報格差の問題意識を高めるための情報発信及び啓発	シンポジウム	4	'18/6/19	品川区立総合区民会館	電話リレーサービス	一般市民	80
			'18/8/19	東京都障害者福祉会館	当事者研究		15
			'18/9/17	川崎市国際交流センター	医療通訳		320
			'19/2/2	日比谷コンベンションホール	電話リレーサービス		100
	講演	10	'18/4/21	稲城市聴覚障害者協会	電話リレーサービス	一般市民	30
			'18/7/14	横浜聴覚障害者がい者を守る会	電話リレーサービス		100
			'18/8/25	守谷市聴覚障害者協会	電話リレーサービス		30
			'18/8/25	立川市聴覚障害者協会	電話リレーサービス		80
			'18/9/17	武蔵野美術大学 芸術文化学科	コミュニケーションパリアフリー		20
			'18/11/16	コールセンター/CRM デモ&カンファレンス	電話リレーサービス		100
			'18/11/16	第44回千葉県経営研究集会	コミュニケーションパリアフリー		50
			'18/12/15	DPI 日本会議 常任委員会	コミュニケーションパリアフリー		30
			'19/1/26	川崎市ろう者協会	電話リレーサービス		100
			'19/2/2	立憲民主党	電話リレーサービス		議員
	定例会	4	'18/5/25	千代田区障害者福祉センター	当事者研究	会員	10
			'18/6/17	千代田区障害者福祉センター	当事者研究		10
			'18/10/7	千代田区障害者福祉センター	当事者研究		10
			'18/11/17	千代田区障害者福祉センター	当事者研究		10
	(2) 情報弱者をなくすための情報提供システム開発 (情報提供システム開発事業・Webでの情報発信)		-	通年	Webサイト		一般市民
(3) 情報リテラシー向上のための教育(ワークショップなどの開催/企画事業・セミナー)		0					
(4) 情報弱者の雇用機会創出の支援 (障がい者ダイバーシティに関するディスカッション開催)		0					

「情報格差の問題意識を高めるための情報発信及び啓発」事業に関して、今年度のトピックスを3点紹介する。

- 電話リレーサービスに関するシンポジウムを2回実施した。本イベントを契機に、「電話におけるコミュニケーションバリア」について、NHKや各メディアに積極的にアプローチすることで、取材に関わり、世の中の関心を高めることができた。その結果、総務省における電話リレーサービスに係る検討ワーキンググループの開催につなげることができた。
- 医療通訳シンポジウムは会場を2つに分けるなどして、全国から320名の集客を得て、医療通訳に対する関心を高めることができた。また、要望を2回するなどロビーイング活動が功を奏して、川崎市当局に働きかけ、検討を進めることができた。
- 当事者のお困りごとを可視化し、当事者自身の課題解決を促すことを目的とした当事者研究の定例会を5回実施した。その中でも8/19は2年越しの活動の成果をまとめるためのミニシンポジウムを実施し、東京大学先端科学技術研究センター 熊谷晋一郎先生と綾屋紗月先生をアドバイザーとしてお招きし、今後の展望を見出すことができた。

3.2. その他の事業

事業なし